

A0204-05	点検や補修工事の前の安全確認を怠るな		
本文	点検や補修工事などの非定常作業では、作業前に適切な事前処置や連絡確認等の安全措置が確実になされているかを確認し、かつ、それを作業終了まで安全措置を維持すること。		
リスクの種類	火災爆発、人身災害	関連目次・章節	
理由(何故)	工事のための配管切り離し、機器の点検、補修などの作業で、事前処置や連絡確認不足により、漏洩、火災事故、あるいは工事中機器の間違った作動などにより人身事故を起こす。		
方策	<p>工事を安全に行うために、必要な関連バルブ閉止や電源をオフにするなどの安全措置操と関係者間の連絡を確実に実施し、かつ作業終了までこれらの安全措置を確実に維持しなければならない。</p> <p>基本的な方策として、</p> <p>1. 運転側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備点検、補修工事の内容を明確にし、点検・補修計画書を作業員ならびに工事担当者に伝える。 ・開放点検、補修工事を行う設備は他の設備から仕切り板等で切り離し、必要に応じて内部の流体の抜き取り・洗浄を前もって行っておく。 ・機器内部に作業者が入る場合はガス検知器により、安全を確認すること。 <p>2. 工事側</p> <p>(1)設備の点検や補修工事に入る前の安全確認及び作業における安全規則遵守を確実にを行うために下記の手順を確立し実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事計画書に工事安全計画、マニュアルを作成し、安全対策を実施する。 ・実施する作業に適用される安全規則および手順を理解し、遵守する。 ・工事計画書で作業内容を確認し、工事対象設備を現地で確認する。 ・作業内容での危険想定事象を考え、危険を回避する措置をした上で作業に入る。 ・対象機器としてバルブにより仕切られる槽類を例にとれば、バルブの開閉状況をシートを使って確認する。 <p>(2)日常の工程管理、作業管理として下記のことを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バルブの開閉方向を明示し、その間近に内部流体の名称、流れ方向を表示する。 ・毎週、週の初めに全従業員に対し安全会話を行う。実施する作業に関連した話題を扱う ・その他、オーナー、監督者の心構え <p>3. 連絡体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この種の業務は協力会社を含めた複数の部署による作業が多いのでこれらの連携が即時即刻とれる連絡体制を予め構築することも必要である。 ・定期的な工事連絡会を開催し、作業確認とともに安全確保に努める。 ・特に、火気工事では現場にて工事箇所を工事側／運転側両方で確認することが望ましい。 		
事故例	確認ミス、連絡ミスなどによる事故あり。		
法的参考事項			
備考	参考資料：高圧ガス保安技術「工事管理」(高圧ガス保安協会)		